

新型コロナ感染拡大第6波から区民の命、暮らしを守る緊急申し入れ

荒川区長 西川太一郎 殿

オミクロン株による急激な感染拡大で、区内の感染者も過去最多を更新しており、危機的な状況です。19日時点で入院45名・宿泊療養107名、自宅療養は540名にものぼっており、今後も更に増加すると考えます。介護事業所のクラスターでは入院となった利用者もあり、リスクの高い方々を感染させない対策の強化が必要です。

ワクチンの3回目接種はすでに手遅れと言わざるを得ませんが、高齢者や基礎疾患のある方、エッセンシャルワーカー等に対しては、迅速な接種が必要です。また今回の特徴である、若年層、子どもへの感染によって、保育園の休園、学校の学級閉鎖など深刻な状況が生まれ、区民の就労や暮らしにも大きな影響が生じています。

都は、「濃厚接触者に対し感染者本人から連絡」することとしており、荒川区保健所でも同じ対応をせざるを得ない状況ですが、感染者が特定されることから差別や実効性などの懸念もあります。本来であればありえない対応で、保健所体制を後退させてきた歴代政府の責任は極めて重大です。杉並区では、図書館職員が保健所の応援体制に組み込まれ、図書館が休館するという事態がおこっています。住民の暮らしを支える体制にも大きな影響が出始めており、保健所をはじめとした行政職員の体制充実が、今後も最優先課題です。

急激な感染拡大のもとで、区民の命と暮らしを守るため、以下の対応を緊急的に実施するよう強く求めます。

記

- 1, 第6波の感染状況に対応するための人員増など、保健所の体制強化を直ちに行うこと。
- 2, 感染拡大を可能な限り防止するための検査について
 - ①高齢者、障害者施設など、リスクの高い人が利用する施設においては、定期・頻回検査を実施すること
 - ②事業所が利用者・従業員等に対し独自に検査を行った場合に、費用を補助すること
 - ③希望する区民や区内在勤・在学者に対し、抗原検査キットの無料配布を実施すること
 - ④区独自のPCR検査センターの再設置を検討すること
 - ⑤濃厚接触者が医療機関で検査を希望した際、医師の判断に関わらず公費負担で行えることを、区民や区内医療機関へ周知すること
- 3, ワクチンの3回目接種について
 - ①区として、可能な限り迅速に接種を実施すること
 - ②住民票がない人に対し、接種実施の周知を徹底すること

③ワクチン未接種者に対し、差別が起こらないよう合理的配慮を徹底すること

④医療機関の現状を鑑み、集団接種会場の増設の検討を行うこと

4、事業所等への支援について

①高齢者・障害者施設をはじめ、保育園・幼稚園・学校、医療機関など現場の要望を聞き取り可能な限り実現すること

②上記施設など希望する事業所に対し、マスク・手袋など感染防止用具の配布を実施・拡充すること

5、区民のくらし支援について

①感染の心配で保育園等を休む世帯への保育料減免は、当面日割りでを行い、1月に関して遡って対応すること

②「小学校休業等対応助成金」について、学校・保育園等の保護者へ広く周知し、活用を呼びかけること。また、区内事業者に対しても周知を行い、保護者が利用しやすい環境をつくること

③区民サービスの低下を可能な限り抑える態勢をすぐにつくること

④都の協力金について、申請の開始・支給を迅速に行うよう都へもとめること

2022年1月24日

日本共産党荒川区議会議員団